

6 健康なくらしとまちづくり

(1) ごみはどこへ

教室のごみばこには、紙くず・鉛筆^{えんぴつ}のけずりかす・給食のパンの袋など、いろいろなものがすてられています。学校中のごみを合わせると、たいへんな量になります。みなさんの家でも、多くのものがごみとなっています。

① 家から出るごみを調べよう

生ごみや紙くず，ビニール，びん・かん・ペットボトル，ざっし・新聞紙，牛乳パック，食品トレイ，布，プラスチック，電化製品など，家からいろいろなごみがたくさん出ます。ごみはどのように処理されているのでしょうか。

根室市では，ごみを分別して出すことになっています。

【ごみ分別一覧】

もやせるごみ (有料) <small>ゆうりょう</small>	
もやせないごみ (有料)	
資 源 ご み	ガラス・びん
	発泡トレイ
	空きかん
	ペットボトル
	紙
	プラスチック
粗大ごみ (有料) <small>そ だい</small>	

根室市ごみ分別ガイドブック



さらにくわしい【根室市ごみ分別ガイドブック】もあります。

② ^{しゅうしゅう} ^{ようす} ごみの収集の様子を調べよう

根室市では、分別したごみを決められた袋に入れます。^{ふくろ}
そして、ごみの種類^{しゅるい}によって決められた日に出すことになっています。

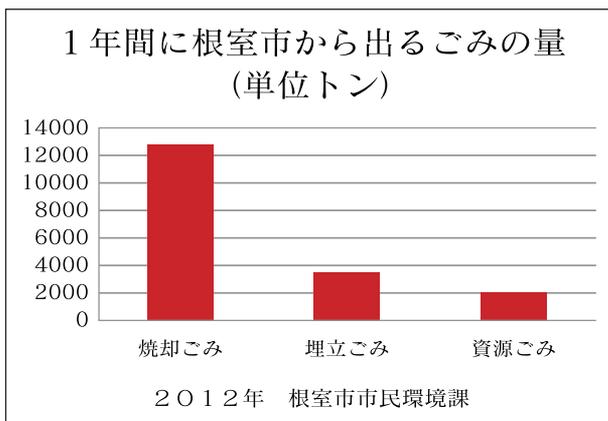
出されたごみは、ごみ収集車が集めて回ります。

根室市のごみは、種類によって処理する場所がちがいます。もやせるごみは

『根室市じん芥焼却場』^{かいしょうきゃくじょう}で、もやせないごみ^{うめ}は『ごみ埋立処理場』^{たてしよりじょう}で処理します。資源ごみ^{しげん}は、『資源再生センター』^{さいせい}に運ばれ処理します。



ごみを処理する様子



【根室市のごみの量】

1日に約51トンのごみが出ます。1年間では約2万トンになります。

③ もやせるごみのゆくえ

根室市では、もやせるごみを根室市じん芥焼却場^{かいしょうきゃくじょう}に運び、もやしています。



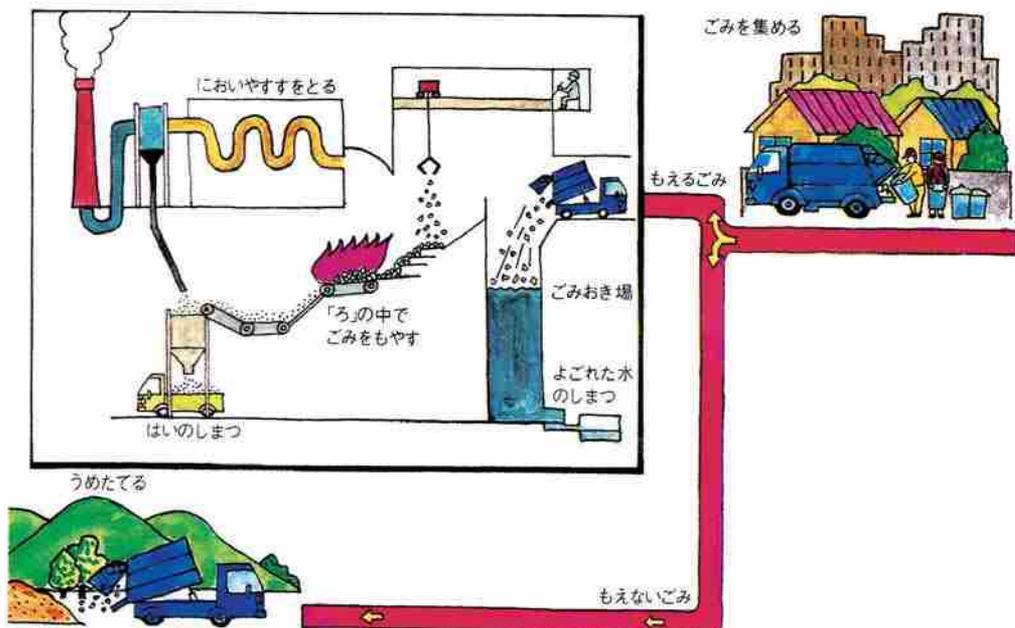
根室市じん芥焼却場

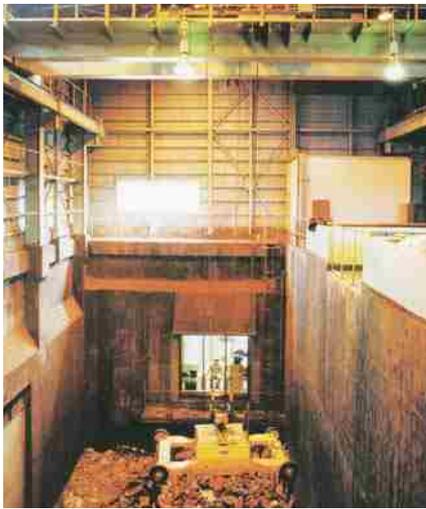


ごみを集めた収集車は、焼却場の中に入り、ごみをごみピットに入れます。ごみピットのごみは、クレーンで焼却炉の中へ運ばれ、もやされます。焼却場では、ごみを高熱で昼も夜も、もやし続けています。2つの炉で、1日最大100トンのごみをもやすことができます。

もやされたごみは、灰になります。灰は、ごみ埋立処理場に運ばれます。

【焼却場のしくみ】





【焼却場の内部】

【ごみピットレーン】

ごみピットで一時ごみをためておき、ごみクレーンで焼却炉の中に運ばれます。

【焼却炉】

中に運ばれたごみは、焼却炉に入れられ、もやされます。



【焼却炉内部】

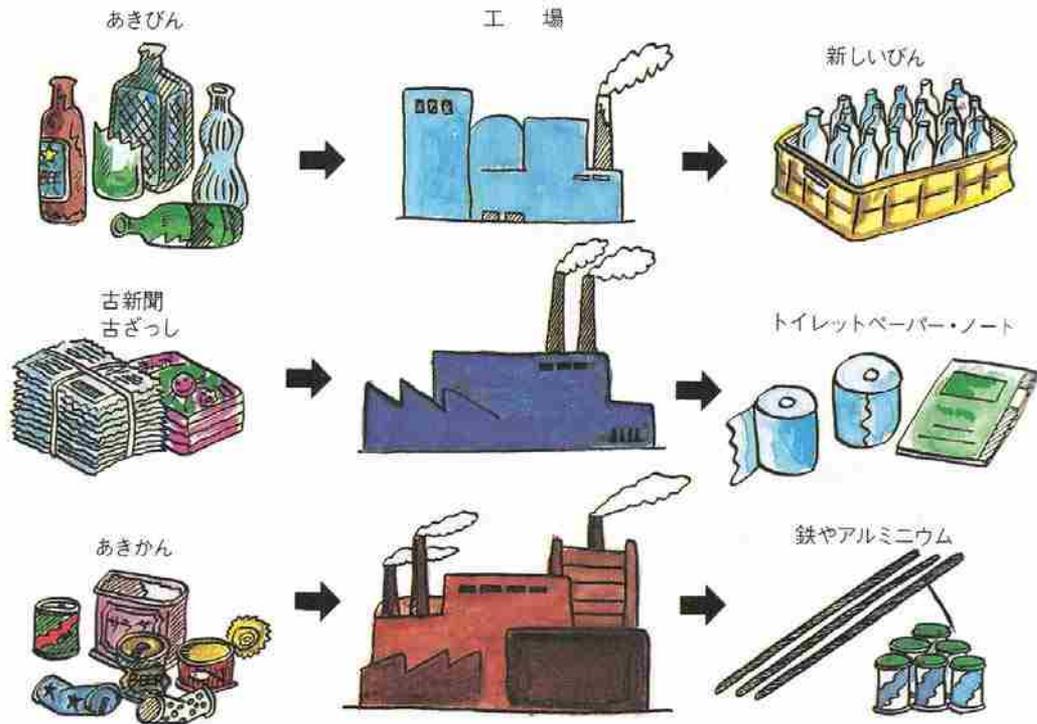
かべは熱と火に強いレンガでつくられています。

④ 資源ごみのゆくえ

びん・かん・ペットボトル・紙などの資源ごみは、焼却場内にある『資源再生センター』に運ばれます。そこで、運ばれてきた資源ごみがきちんと分別されているか確認したり、よごれのひどいものや資源ごみではないものを取りのぞいたりしながら、それぞれの種類ごとに分けていきます。

分別された資源ごみは、それぞれ別々の工場などに運ばれ新たな製品になります。

ガラスびん	さいせい 再生びん
ペットボトル	せんい たまご 繊維・卵パック・クリアファイル・植木鉢・再生ペットボトル等
プラスチック	こうろ ねんりょう 高炉の燃料
紙	さいせいし 再生紙



資源ごみのゆくえ

⑤ ごみをもやした灰はいのゆくえ



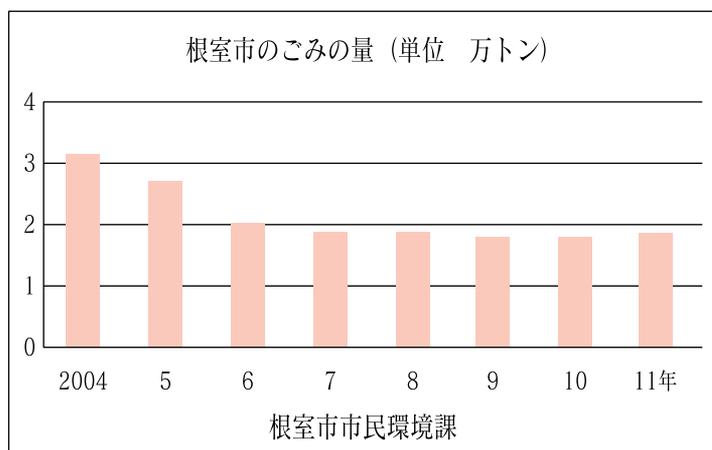
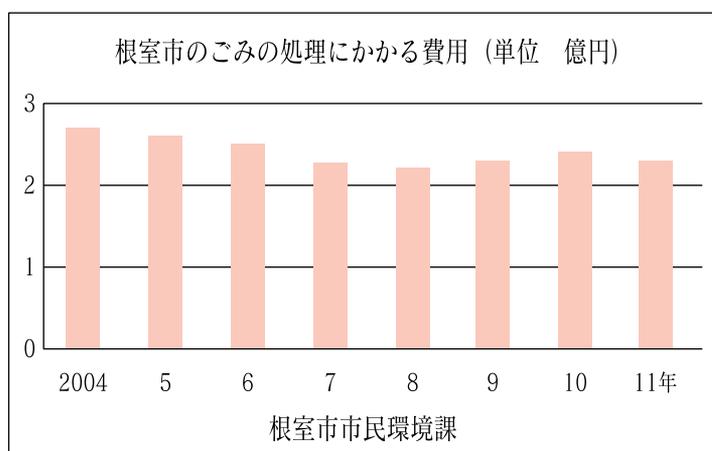
根室市ごみ埋立処理場

ごみをもやして残のこった灰やもやせないごみ、粗大そだいごみは、根室市ごみ埋立処理場に運ばれます。運ばれてきたごみは、分解ぶんかい処理され、もやせるごみともやせないごみに分別します。

分別されたもやせるごみは、50cmくらいの大きさに解体され、焼却場に運ばれます。分別で残ったもやせないごみだけが、ここに埋められます。

ごみが風によって飛びちったり、害虫が発生したり、においが広がったりしないように、埋め立てのたびに上から土でおおいます。ほかにも、ごみが飛びちることを防ぐための高さ3mの柵や、ごみによってよごれた水をきれいにするための設備などがあります。

⑥ こんなに費用がかかるなんて



根室市では、ごみ処理に毎年2億円ちかくかかっています。ごみの量は、2006年(平成18年)に大きくへりました。これは、2004年(平成16年)に資源再生センターが本格稼働し、リサイクルが進んだからです。

【根室市のごみ処理に関する年表】

- 1947年 しゅうしゅう 収集を希望する家庭等からごみの収集を始める。
- 1967年 かどう ごみ焼却場が光洋町で稼働開始。
もやせるごみともやせないごみに分別した収集を始める。
- 1972年 うめたて げんざい つきわかちよう ごみ埋立処理場が現在の月岡町で稼働開始。
- 1981年 じん芥焼却場完成
- 1992年 あ かんかいしゅう 空き缶回収開始
- 1998年 ペットボトル分別収集開始
- 2004年 さいせい ほんかく 資源再生センターの本格稼働（空き缶・ペットボトル）
- 2010年 資源ごみの分別品目が増える。ふ（ガラスびん・発はっ泡ほうトレイ・紙類・プラスチック製容器包装せいよう きほうそう）
- 2012年 そだい はさい せつだん ごみ埋立処理場で粗大ごみなどの破碎や切断処理が可能となる。かのう

⑦ これからのごみの始末

わたしたちの生活は、とても便利になりました。それだけに、多くの品物が使われるようになり、古くなったりこわれてしまうとすてられることが多くなりました。

しかし、品物を工夫して使い、ごみを少なくすることは、きれいで住みよいくらしをするためにとても大切なことです。

たとえば、古新聞や古雑誌ざっし、段ボールなどを持ち寄ってまとめて売ったり、町内ごとや学校ごとに廃品回収はいひんかいしゅうなどをしたりすることも大切なことです。

ごみは、決められた曜日に、ちらかさないようにして出したり、家の周りがよごれていたら進んで清掃することによって、市民一人ひとりの協力で住みよい、健康なくらしができるまちづくりができるのです。

⑧ 市の人たちは

根室市では、ごみをへらすために様々な取り組みをしています。

【コンポスト容器を活用しよう】

コンポストとは、生ごみを肥料として再利用できるようにする容器のことです。これを使うことで、各家庭で生ごみをリサイクルすることができ、ごみの量がへります。

そこで、根室市ではコンポストを買うお金の一部を援助し、より少ないお金で買えるようにしています。



「コンポスト」について紹介



『青空バザール』（根室市役所駐車場）

【青空バザール】

根室市ではごみがへり、リサイクルが進むようになりました。毎年10月に「青空バザール」を開いています。これは、根室に住む人たちがまだまだ使えるけどいらなくなったものを持ち寄り、必要な人が買っていくフリーマーケットです。毎年、たくさんのお店が出店し、着なくなった服や、使わなくなった道具を必要な人が買っていきます。

【集団資源回収】

根室市ではごみをへらしたり、リサイクルを進めたりするために、ごみの回収をする団体にお金を援助し、たくさんの方がリサイクルに関われるような取り組みをしています。

(2) 水はどこから



昔は、ほとんどの家が、井戸^{いどみず}水や川、池などの水を使っていたそうです。井戸水は、家の外だったので、雨の日や雪の日には、水くみがとても大変でした。

でも、今は、水道のじゃ口をひねると、すぐにきれいな水がたくさん出ます。

① 1日に使う水の量を調べよう



加工場でカニを洗う様子

根室市の水道水は、わたしたちの家や学校、お店、加工場、工場、銭湯^{せんとう}、魚介類^{ぎょかいりい}を冷やす氷などに使われています。

根室市全体で1日に使う水の量は、すべて合わせて約8,333トンです。1人あたりでは、1日約291リットルを使っていることになります。これは、2リットルのペットボトル約150本分に相当します。



加工場の机や床を洗う様子

根室市は水産業がさかんなので、海産物を洗ったり加工したり、冷やしたりするのにたくさんの水道水を使っています。

② 水が送られてくる道を調べよう



牧の内ダム

根室市の水道の水源は、^{すいげん}川や沼・地下水です。これらは、目に見えないよごれやばいきんが入っていることがあります、そのままでは飲むことができません。そこで、^{かつらぎじょうすいじょう}桂木浄水場では、水を

安心して飲めるようにきれいにして、家庭や工場などに水を送っています。



桂木浄水場

③ 浄水場を見学して調べよう

浄水場では、水源の水を安心して飲めるように、水をきれいにしていきます。

桂木浄水場では、水をきれいにするためにちんでん池やろ過池などの設備や塩素という薬で消毒する装置など、水をきれいにするための設備が整えられています。

また、設備や装置に指示を出したり、水処理の運転監視をするための中央管理室があります。きれいな水をつくるために、24時間休まずに働いています。

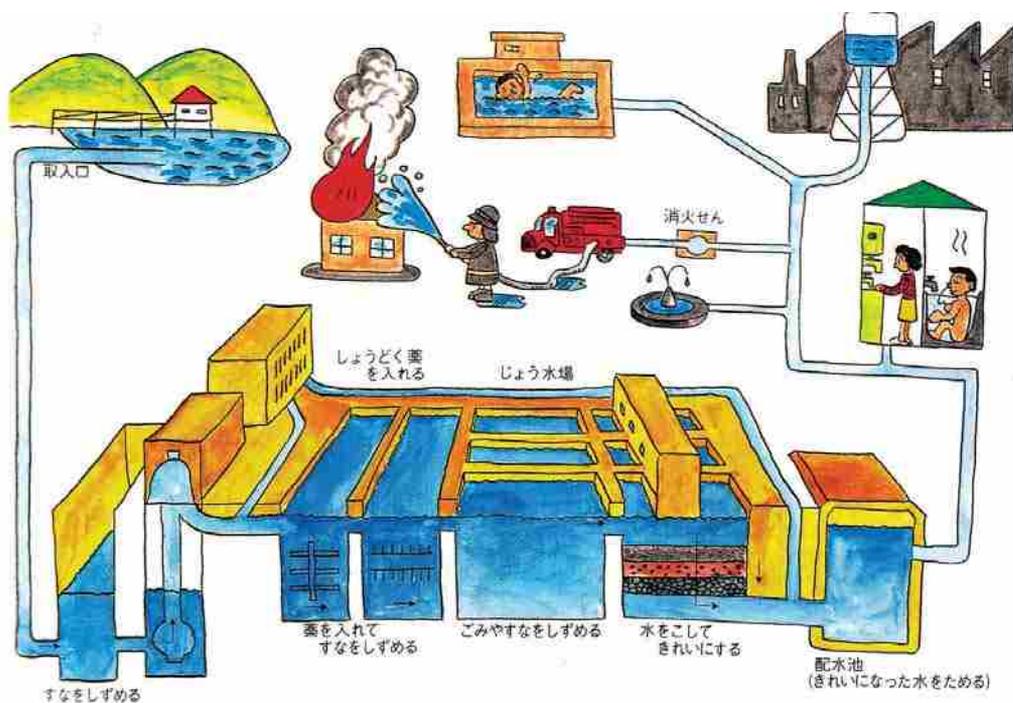
こうしてつくられた水は、配水池にいったんためられて、そこからわたしたちの学校や家庭、工場や店などに送られていきます。



中央管理室



水道のしくみ



④ ダムや森林のはたらきを調べよう

根室市の水道水の水源の1つに、牧の内ダムがあります。



【牧の内ダムデータ】

- ・高さ 18.5m
- ・幅105m
- ・50万トンの水をためることができる
- ・1980年に完成

牧の内ダム

牧の内ダムは、コタンケシ川をせき止め、水をためています。市の水道を使う人たちのおよそ2か月分の水をためることができます。

根室市の水源のダムや川、沼などは、森林に囲まれています。これは、森林がふった雨をたくわえ、少しずつ流すダムのはたらきをしているからです。

⑤ 水源を守る取り組みを調べよう

根室市では、水源の森林を整え、守っていく取り組みをしています。牧の内ダムの水を守るために、牧の内ダムのまわりの土地を買い取り、約15万本の木を植える取り組みをしてきました。今は、植えた木がしっかり育っていくことに力を入れています。



牧の内ダム周囲の植林の様子

(3) 水はどこへ

① 下水道のやくわり

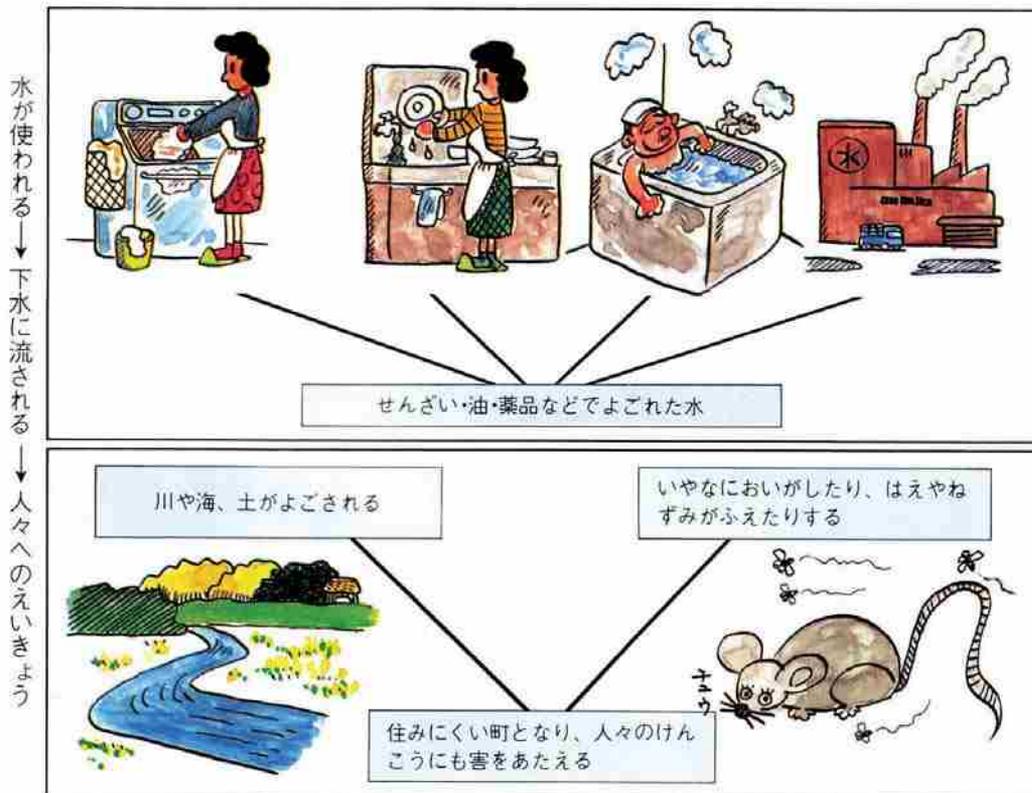
わたしたちが生活するには、いろいろな場所でたくさんの水が使われています。



下水処理場

顔や手を洗う、米をとぐ、野菜や魚を洗う、せんたくする、ふろの水などがあります。これらのよごれた水は、そのまま流すと海や川、池などがよごれ、いやなにおいがしたり、海や川の生き物が死んだり、人々が病気になったりするなど、わたしたちの生活にさまざまな悪いいきょうをあたえます。

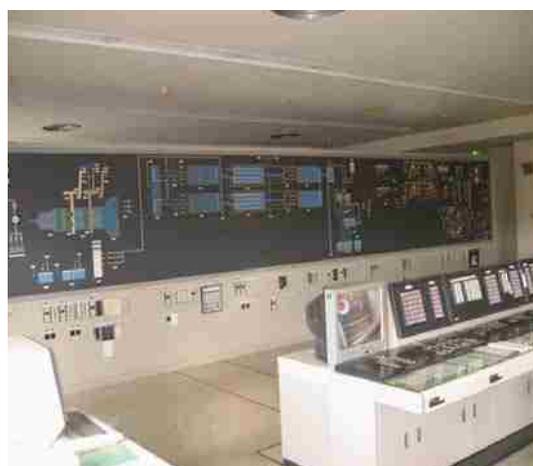
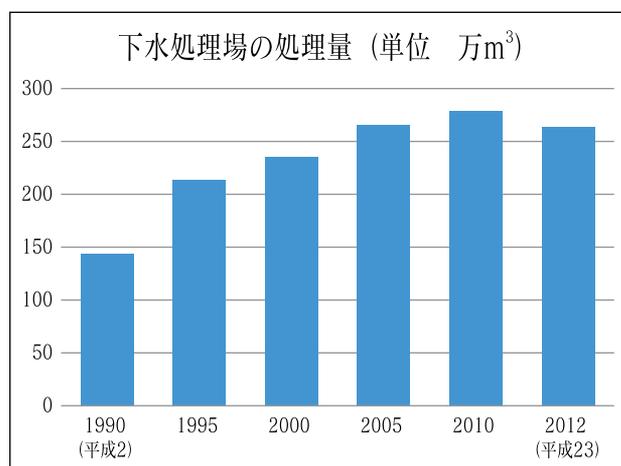
そこで、根室市では下水道をつくり、よごれた水を下水管しよりじょうに集めて運び、下水処理場できれいにして川や海に流しています。



② 下水処理場

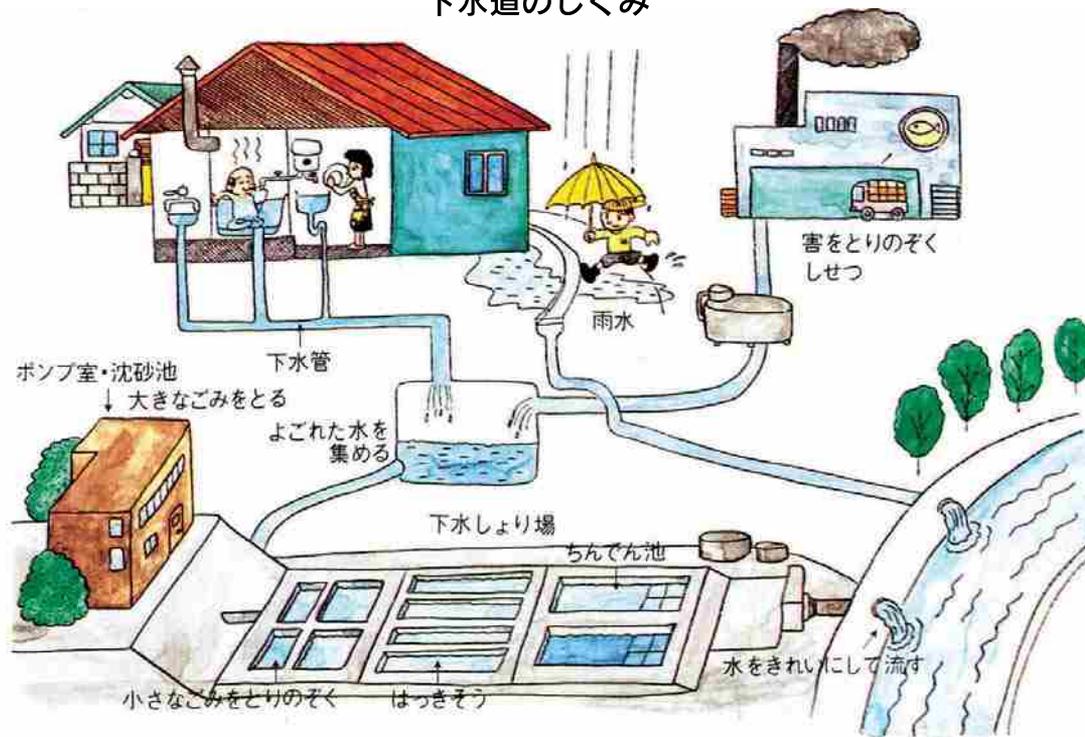
根室市の下水処理場は、^{にしはまちょう}西浜町にあります。そこでは、1日約736万リットルの水をきれいにして、川に流しています。

きれいにするためには、ちん砂池やエアレーションタンクなどの設備や塩素という薬で消毒する装置など、よごれた水をきれいにするための設備が整えられています。



中央操作室

下水道のしくみ



(4) わたしたちの生活と電気

電気は、熱・光・力など、あらゆるものにかたちをかえて、わたしたちの生活に利用されています。ですから、電気がなければ、一日として生活できないといってもよいでしょう。

電気は、火力発電所・水力発電所・原子力発電所（平成25年12月現在運転停止）でつくられています。最近では、風力・地熱・太陽光などの自然エネルギーを利用して発電しているところもあります。

根室市内で使われている電気は、どのように送られてくるのでしょうか。

市内の電気は、おもに、道央圏の発電所と阿寒川水系の発電所の一部から、18万7千ボルトの送電線で運ばれてきます。別海町の西春別変電所で6万6千ボルトに電圧を下げ、厚床変電所まで送られた電気は、市内の変電所で6千6百ボルトに電圧を下げ、配電線へ送られます。

配電線は、道路に沿って網の目のように張り巡らされていて、ビル・工場・大規模な商店や病院へはそのままの電圧で電気が送られます。一般家庭には、電柱の上にある変圧器（トランス）によって電圧を百から2百ボルトに下げて送られてきます。

【ボルト（電圧）】

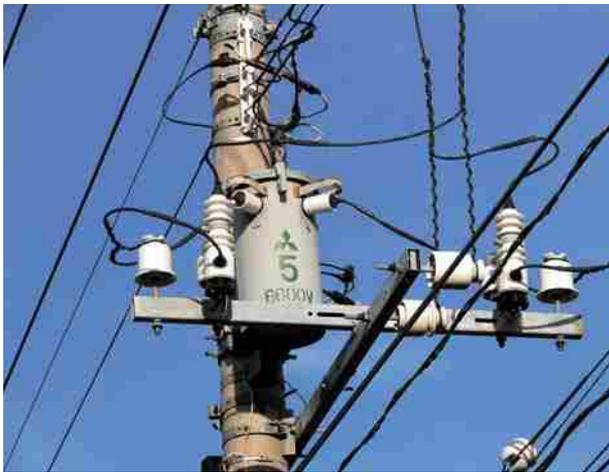
発電所でつくられた電気を、みんなが使う家庭または工場まで押し出してくる力の強さを表します。



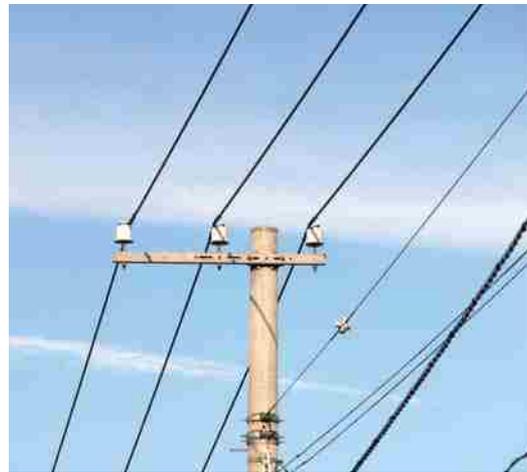
厚床変電所



送電線

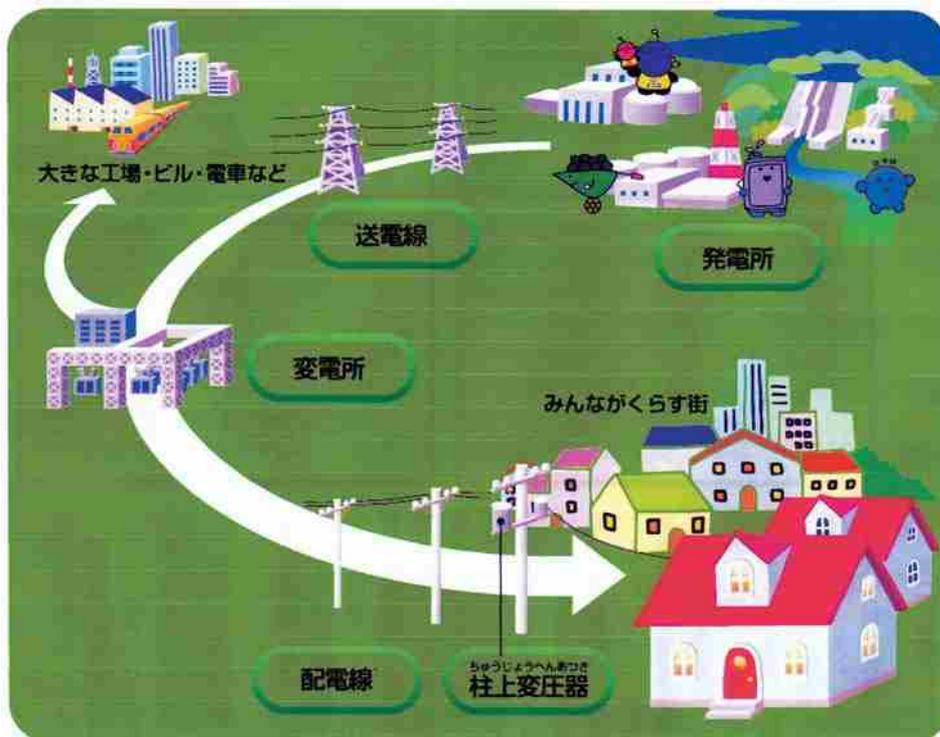


変圧器 (トランス)



配電線

電気が家にとどくまで



7 昔から今へと続くまちづくり



花咲港



出漁の準備



さんまの水揚げ

わたしたちが住んでいる根室では、たくさんの魚や貝、カニ、こんぶなどの水産物が有名です。また、根室の牧草で育った牛からとれるミネラルたっぷりの牛乳などの酪農ぎゆうにゆうも有名らくのうです。「根室では、さんまやカニ、牛乳などがたくさんあるけど、ずっと昔からあったのかな。」

今の根室と昔の様子を、写真を見てくらべてみましょう。

右の写真は、約170年ほど前のこんぶ漁の様子です。百年以上昔からこんぶがとられていたことがわかります。

下の写真は、牧場の様子です。約120年ほど前の写真です。このころから、根室で酪農が始まりました。

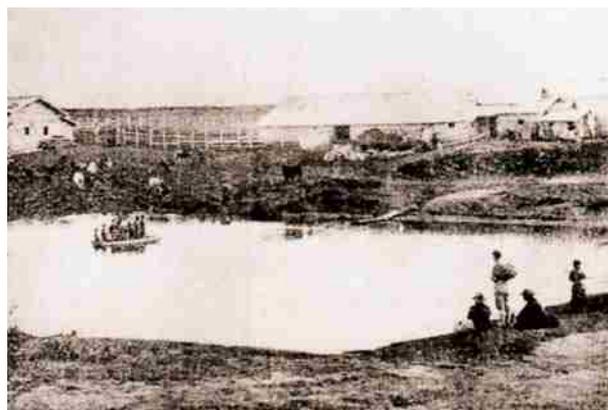
しかし、今のような生活ができるまでには、多くの人々の苦^{くふう}労や工夫がありました。根室のまちづくりについて調べてみましょう。



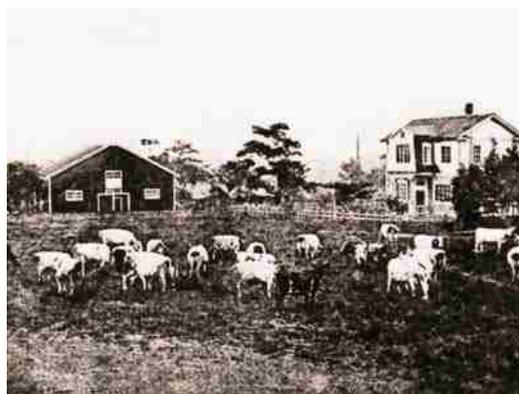
こんぶ漁の様子



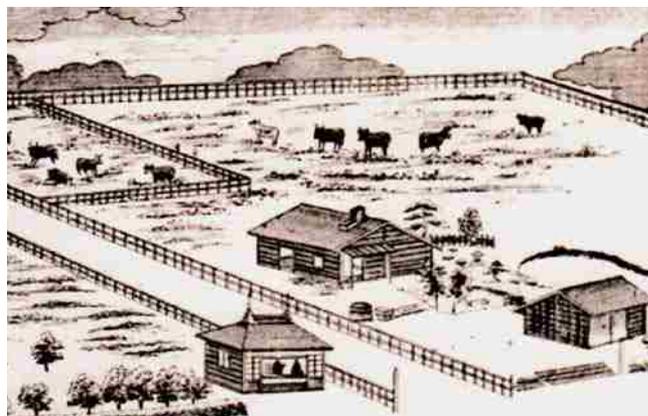
こんぶ干し



明治末期の牧場



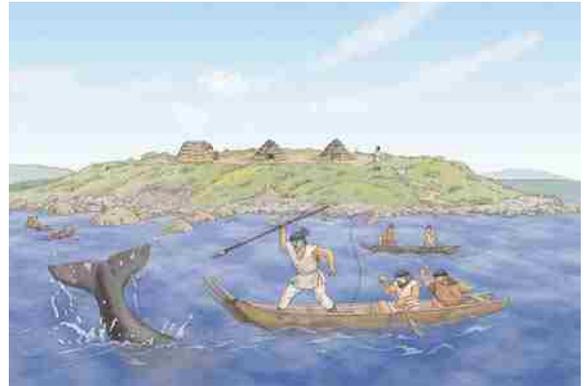
牛の放牧



牛馬肉の販売を行う牧場

(1) 大昔の人々の生活

根室市に最初に人々が
住み始めたのは、今から
約8,000年前の縄文
時代です。その後、約2,
000年前の続縄文時代、
約1,500年前のオホ
ツク文化期、約800年前の擦文時代とばれる時代が
続きます。



海で漁をするオホツク人の様子（弁天島遺跡）

大昔の人々は、ねん土を焼いてつくった土器を使ったり、石や動物の骨でつくった道具で、海や川に行つて魚や貝をとり、また、森に行つて鳥やけものをとつて食べたり、その毛皮を服にしたりしていました。

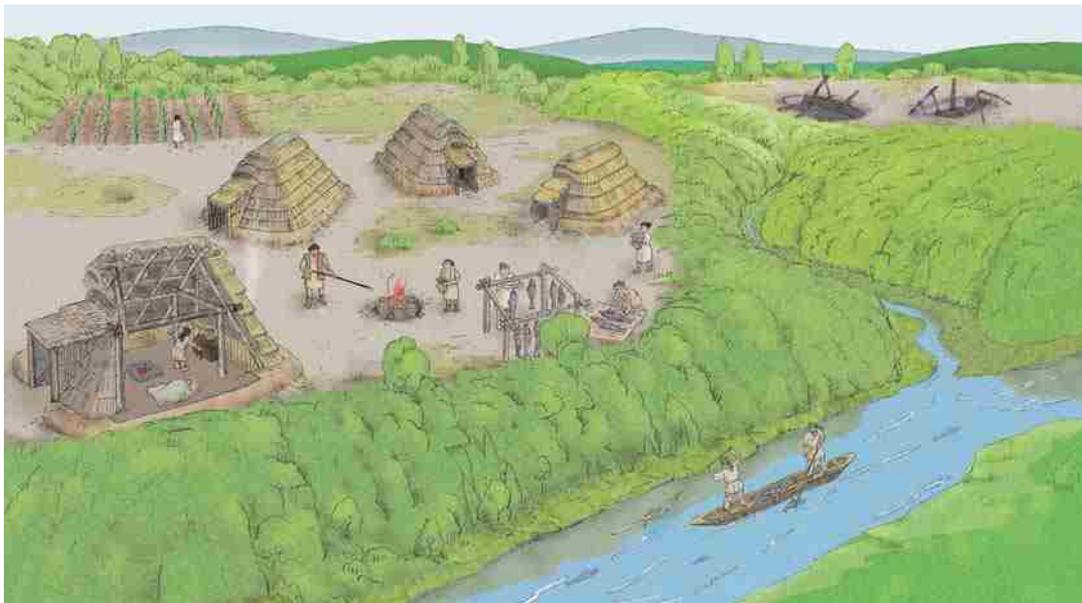


初田牛20遺跡の土偶

遺跡から見つかるのは、こうした生活の道具だけではありません。初田牛の遺跡では、約3,000年前のお墓や土偶が見つかっています。土偶は、ねん土で人形の形をつくって焼いたものです。縄文人のお祭りの道具として使われたものと考えられています。

家は「たてあな住居」とよばれるもので、深さ1メートルぐらいのあなをほつて柱をたて、屋根にはヨシを束ねたものをふいていました。このような家を作つた場所は、湖や川の近くで、水はけや日あたりのよい台地の上

です。昔は舟で移動していたので、水辺に近い方が便利だったのでしょう。



今から900年前の縄文時代のムラの様子（西浜町：西月ヶ丘遺跡）



ヲンネモトチャシ跡（温根元）

また、今から約300年前ころに、アイヌの人々がつくったとされる「チャシ跡」が、根室市には32ヶ所あります。チャシ跡は、アイヌの人々が戦いのときにたてこもった「とりで」、

お祭りをする場所、みはり場などとして使われたものです。大きくて深い「ほり」や、土をつみあげた「盛り土」などがかんさつできます。

また、納沙布岬には、「クナシリ・メナシの戦い」で亡くなった「和人」の石碑があります。この戦いは、クナシリ島に住んでいたアイヌの人たちに、商人（和人の）



ノツカマフ1号チャシ跡（牧の内）

が安い給料で魚かすをつくる仕事をさせたり，言うことをきかないアイヌの人に^{どく}毒を飲ませたことがもとになって，アイヌの人たちが和人を殺したことで起きた争いです。戦いは，アイヌの人が処刑されておさまりました。

昔からアイヌの人たちには，今にも残る文化がたくさんあります。地名もその一つです。北海道の市町村の名前を調べてみると，「別」や「内」，「幌」がつく地名が多くあります。それらのまちはアイヌ語の「川」，「沢」，「大きい」の意味の言葉からついた名前になっています。

二つ目は，信こうです。アイヌの人たちは，動物や植物，火，水など人間が生きていくのに必要なものや病気など，人間の力ではどうにもできないものを「カムイ（神）」としてうやまいました。

しかし，動物をとらえて肉や毛皮を手に入れるということは，その動物の命をうばうことです。そこで，アイヌの人たちは，肉や毛皮を受け取るかわりに，最高の礼

をつくしてカムイを神々の世界へ送り帰すことで、また、そのカムイが動物に姿を変えて人間の世界にやってくると考えたのです。これが、「イオマンテ」と言われる儀式しきです。

また、その儀式では、歌ったりおどったりもしました。

「ウポポ」と言われる歌や、「剣つるぎの舞まい」，「弓の舞」，「リムセ」などのおどりです。



アットウシ（木の皮を糸にして織った着物）

(2) 大黒屋光太夫とラクスマン

江戸時代、日本では『鎖国』さこくと言って、海外に行くことを禁止にしたり、外国との交易を禁止したり、キリスト教を禁止したりしていました。また、今の長崎県の『出島』というところでしか、外国との貿易を行っていませんでした。

大黒屋光太夫は江戸時代、江戸（今の東京）にもめんや米、酒などを運ぶ船の船頭をしていました。

1782年12月、光太夫ら17人は江戸に向かう途中、はげしい暴風雨ひょうりゅうにあい、船が漂流してしまいました。その漂流生活の中で、光太夫たちは、今のロシアにたどり着きました。そこで、キリル・ラクスマンと出会いました。「黄金の島ジパング」と呼ばれていた日本きょうみに興味を持ち、喜んで日本のことを聞きました。そして、漂流

の人とひきかえに，日本と通商を結ぼうと考えました。
しかし，シベリアの総督は，日本語の先生として毎日お
金をわたしてもてなしました。それでも，日本に帰ると
いう思いはきえませんでした。

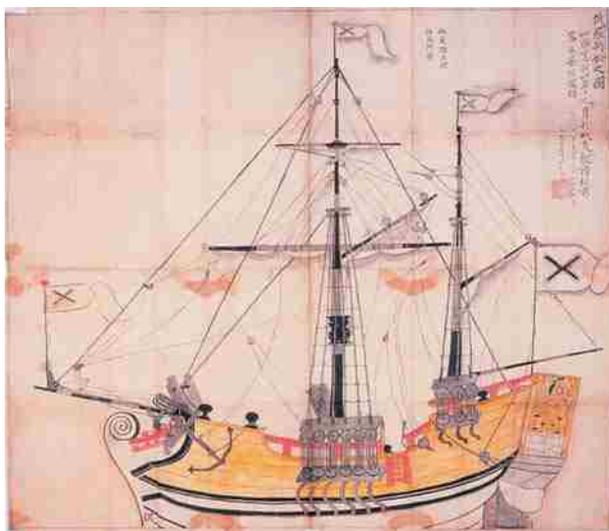
1791年，キリルとともに首
都ペテルブルグに行き，国王エカ
テリーナ2世にお願いすること
にしました。国王は400人の部下
と40～50人の女官に囲まれて
いました。

光太夫は，女王に日本へ帰るこ
とをお願いしました。結果を待つ
間，光太夫たちはお芝居しばいを見たり，
工場や博物館，銀行などを見学し
たりしました。

到着から7か月後，やっと帰国の許可が出ました。光
太夫は，国王から贈り物おくをもらい，日本へと出発しました。



大黒屋光太夫（左）と磯吉（右）
（鈴鹿市役所提供）



ラクスマンと大黒屋光太夫がのってきたエカテリーナ号
（根室市指定有形文化財）

日本への旅は，キリルの
長男であるアダム・ラクスマンが
いっしょに行くことになりました。
1792年10月，根室港に来航し，
日本に帰ることができました。

アダム・ラクスマンは松

前藩の役人と会い、「漂流民を日本に送り届けに来た。

女王陛下から国書をわたすようにあずかっている。」と

伝え、国書をわたしました。返事が来るまで、海岸の小



エカテリーナ号の船長口フツォーフ
(根室市指定有形文化財)

屋で待つことになりました。待つ半年の間、ロシア風の蒸し風呂をたてたり、動植物を調べたり、地形を調べたりしました。また、スケートをしたりしました。

結果、ロシアと日本との通商は認められず、江戸幕府はどうしてもというのであれば、長崎に行つてほしいと言って許可証をわたし、追い返してしまいました。幕府は、

光太夫ら生き残った2人からロシアの様子を聞き、「漂民御覧之記」と「北槎聞略」という本にまとめました。

光太夫たちの持ち帰った西洋の学問の知識は、日本の学問の発展に大きく寄与しました。

また、このラクスマンの来航により、日本が開国へと動いていく、日本のあけぼのとなりました。



大黒屋光太夫のあゆみ

(3) 海運業者の高田屋嘉兵衛

淡路島の農民の子として

生まれた高田屋嘉兵衛は、
漁業をいとなみ、18歳で
兵庫へ出て廻船業者（港か
ら港へ旅客や貨物を運んで
回る船）を志していました。



高田屋 嘉兵衛

1790年に、樽廻船の水主（船乗り）から、船頭（船
長）になりました。1795年には、庄内で1700石
（1石＝約180リットル）積める船を建造し、本格的
に廻船業、蝦夷地経営に乗り出しました。

高田屋嘉兵衛は、操船術にすぐれ、自分の船をつくっ
て、北陸海運から足を伸ばし、坂田から幕府の必需品を
送ったり、厚岸や根室、国後の海産物を回送していました。

1799年、様似で冬を越していた近藤重蔵らを乗せ
て、択捉島開発の命を受けました。当時、国後と択捉と
の間は潮流が早く危険な水域とされ、択捉島開発には、
交易品や人員を大量に輸送する回船のルートを開く
必要がありました。

嘉兵衛は、まず、国後島東端のアトイヤで20日間山
に登り、潮流を研究し、3筋の潮流がそれぞれ別の方向
に流れていることを知り、海峡を直線的に渡るから危険
なのであって、潮流の衝突を迂回すれば、安全な航行が
できると考えました。そして、幕府の御用船「義温丸」
で航海を試み、航路を発見しました。

この択捉航路の発見により、翌年よくなの1800年には、
択捉場所が開設されることとなり、嘉兵衛は同島の漁場
17か所を開発しました。

1811年、国後島に上陸したロシアの軍艦ぐんかんディアナ
号の艦長ゴローニンらが南部藩なんぶはんにとらえられ、艦上でそ
れを見た副長リゴルドは勝ち目がないと判断しオホーツ
クに引き返しましたが、翌年の1812年、再び国後に
来航しました。リコルドは、ゴローニンの消息が確認で
きなかったことから、択捉場所から水産物を移送する途
中の嘉兵衛の乗る観世丸を停船させ、嘉兵衛をカムチャ
ッカに連行しました。

カムチャッカでロシア語を学び、リコルドに対して「幕
府がゴローニンを釈放しゃくほうしないのは、フヴォストフの暴行ぼうこう
への報復ほうふくなので、そのことを謝罪しゃざいし、日本側の誤解ごかいを解
く必要がある。」と説明しました。嘉兵衛に信頼の念を
いただいていたリコルドもこれを受け入れ、三たび国後に
来航し、嘉兵衛を通じてその意を幕府の役人に伝えまし
た。

幕府は、ゴローニンをかえす条件として、ロシア長官
の謝罪文しゃざいぶん・略奪りやくだつした兵器へんきやくの返却を要求し、リコルドもこ
れを了承りょうしょうし、1813年9月、箱館はこだて（今の函館）でシベ
リア総督そうとく及びオホーツク長官の弁明書べんめいしょを提出し、ゴロー
ニンらは釈放されました。

根室市ことひらじんじゃの金刀比羅神社は、日本の北方漁業開発その祖で
あり、根室漁場を開いた「高田屋嘉兵衛」が1806年

に海上安全と漁業・産業の振しん
興こう，民生の安定を祈願きがんしてつ
くったものです。

(4) 根室をつくった人々

根室市には歴史があります。
今の根室ができるまでには、
たくさんの方が苦勞しました。
名前が町名に残っている人も
います。

松本町……	松	本	十	郎
清隆町……	黒	田	清	隆
定基町……	湯	地	定	基
光和町……	羽	山	光	和
平内町……	折	田	平	内
和田地区…	和	田	正	苗

このほかにも，本町に埋立地うめたてちをつく
ったり，漁業の発展につくした「柳田やなぎだ
藤吉とうきち」や「藤野喜兵衛ふじのきへい」など，多くの
人たちの苦勞によって，今の根室がで
きているのです。



「高田屋嘉兵衛」像



本町埋立地の石畳

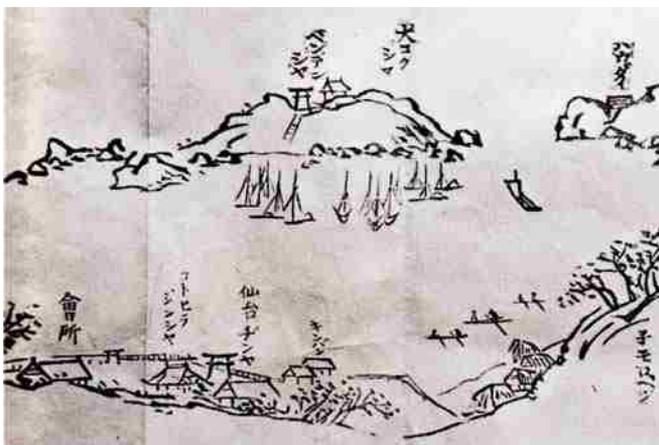
① 町のきそをつくった『松本十郎』^{じゅうろう}

1869年（明治2年），政府^{せいふ}から北海道開拓^{かいたく}を命令された松本十郎の一行が根室にやってきました。東京からイギリス船デールス号に乗り，別海に着きました。そこから役人や移民^{いみん}，きこり，大工など約130人と根室まで歩いてやってきました。



松本 十郎

そのころの根室は，アイヌの人たちが130人ほどと，数人の和人が住んでいるだけでした。建物も役所や神社，倉庫などが数えるほどしかなく，アイヌの人たちの住む家が海辺にところどころあるだけでした。あたりは，一面草や木がおいしげり，熊が出たり，鹿が走り回ったりしているところでした。根室での生活は木を切り，家を建て，道具をつくることから始まったのです。



寛政の根室

ところが，東京からの移民たちは，はじめから「開拓をしよう」という気持ちはありませんでした。

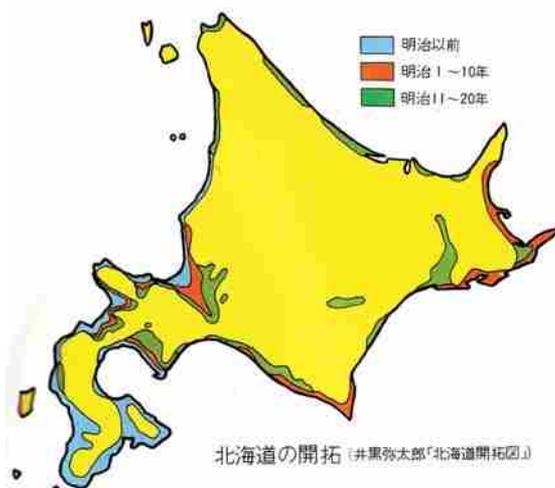
そのため，仕事をいくら教えてもおぼえようと

はせず，いくらしかっても働きませんでした。そればかりか，ケンカをしたり，ただ遊ぶだけで楽をして食べよ

うとばかりしていました。そこで、松本十郎は移民の生活を正しくしようとして、いくつかの方法を考えました。

- ・ ろう屋を建てて、らんぼうものをとりしめる。
- ・ 病人のために、自分のお金で病院を建てる。
- ・ 病院の部屋を使い、読書や習字、算数などを習わせる。

また、今までのやり方を改め、「やりたい」という人にだけ開拓の仕事をさせることにしました。そして、まじめに働き、根室に長く住むことを望んだ15人を残して、ほかの人たちを送り出しました。



しかし、根室を開拓するには、働く人をたくさんふやさなくてはなりません。そのため、松本十郎は私財しざいを使い、移民の世話をしました。

- ・ 人々が仕事をしたり家を建てたりするお金を出す。
- ・ すみやきの仕事や食りようをあたえる。

そのため、協力する人があられ、松本十郎の努力で根室が開けていくことができました。

ほかにも、松本十郎は北海道で最初の灯台と言われる納沙布岬灯台や弁天島灯台の建設を行いました。

② 漁業の発展「柳田藤吉」と「藤野喜兵衛」

松本十郎と力を合わせた函館商人の柳田藤吉と藤野喜兵衛は漁場持と言われ、ほかの漁場持6人と根室の漁場をうけおっていました。

今までの漁場は、限られていた人しか持っていませんでした。松本十郎が来てからは、新しく願い出た人にゆずることになりました。そこで、柳田藤吉は根室の海を見てまわり、魚やこんぶがとれそうなことがわかり願いを出しました。

そのよく年には、函館から漁具や漁船、生活に必要な食料などを積み、移民92人、漁夫420人を根室に送り、新しい漁場を開発していきました。

一方、代々根室の漁場をうけおっていた藤野喜兵衛も、長屋を建てて30人を住まわせました。

その後、毎年移民を集め、合計で98戸、209人もの人がやってきました。根室の漁場全体の半分を藤野家が持ち、約4分の1を

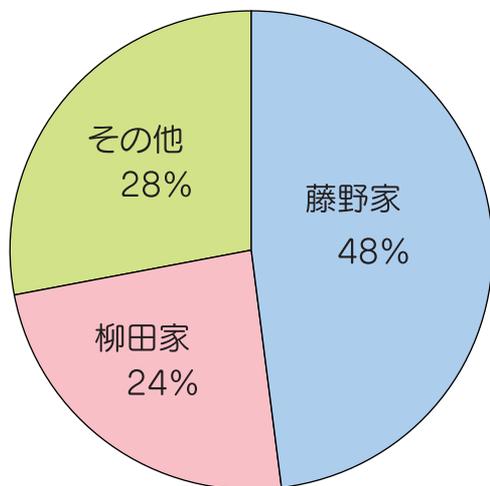


柳田 藤吉



藤野四郎兵衛 (喜兵衛の子)

柳田家が持っていました。このほかにも、菊地屋友蔵・升屋重三郎・小林重吉・稲田屋富右門・鈴木屋惣助・山田屋惣次郎らも29人の移民をつれて根室に移住してきました。

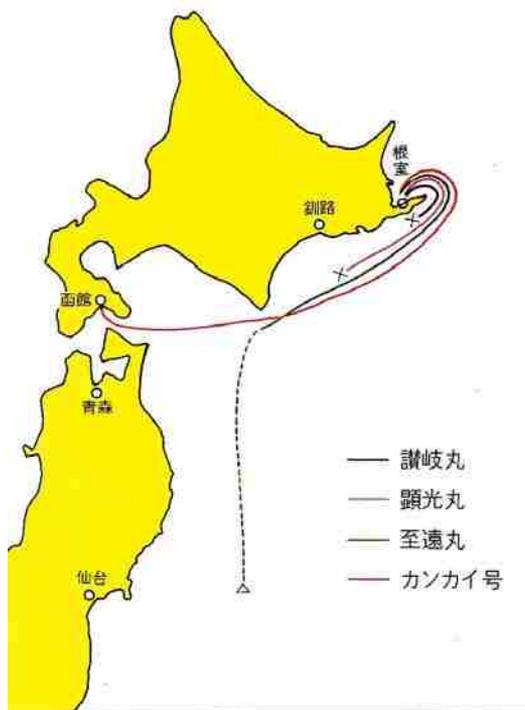


漁業面積のわりあい

これらの漁場持は移民の多くに
こんぶとりの仕事をさせました。
家や漁具をあたえ，食料や日用品
などの生活品もあたえました。

漁場持にとって，こんぶとりの
夏から秋以外の時期は，魚をとる
ときに手伝ってもらえるよさがあ
り，たくさんの移民を集めたのです。

それでも，人々の不安はつづきました。道らしいもの
がなかった明治のはじめのころは，船で根室にやってき
ました。しかも，魚やけものなどの自然しかなかったの
で，食料や日用品などは函館から船で運んでいました。



大変だった海上交通

それも，自由に安全に行き来でき
るものではありませんでした。こ
んぶを積んだ船や食料を積んだ船
がなんぱしたり，^{ほうふうう}暴風雨でちんぼ
つしたりしてしまい，移住してき
た人たちの心を不安にしました。

それでも根室の^{かいたく}開拓のために働き，
力をつくした人たちがいたのです。

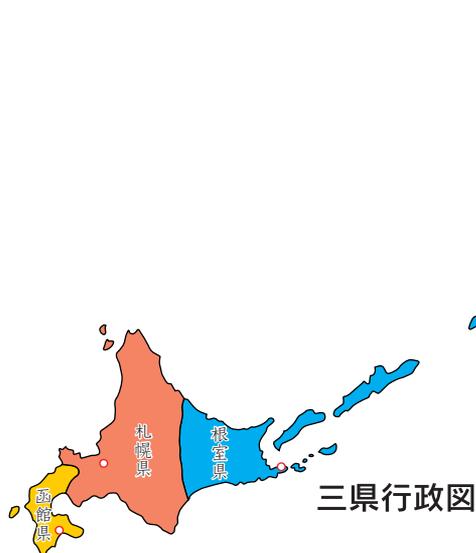
③ 初代県令『湯地定基』のいもづくり

昔、えぞと呼ばれていたころを北海道と改めた明治政府は、明治15年に北海道を札幌・函館・根室の3つの県に分けました。根室県は今の根室・釧路・十勝の一部・網走の一部と千島をふくんだもので、役所は根室にありました。



湯地 定基

この時、根室県令（今の知事）として、根室にやってきたのが湯地定基でした。湯地定基はアメリカの農学校で、クラーク先生などについて勉強してきました。



湯地定基が根室に来たとき、国でつくった農園があるのに、農業をする人が一人もなく、米や野菜などもほかの土地から買っていたことにおどろきました。

そのため、長い冬になると食べ物がなくなり、死んでしまう人もいました。そこで、湯地定基は、自ら学んだ農業を広めたのです。

湯地定基が特に広めたのは、「ばれいしょ」でした。これは、根室の気候・風土に適していると考えたからでした。それぞれの家に「たねいも」と農具をくばり、「ばれいしょ」をつくるよう命令しました。

しかし、人々は命令を聞かず、くばられた「たねいも」を食べてしまいました。それでも、湯地定基はあきらめず、何とかして植^うえてもらおうと、1けん1けんの家をまわり、植え方を教えてまわったのです。これには人々も植えるしかなく、しぶしぶ植えることになりました。

これが冬の食べ物の少ないときに、人々の貴^{きちょう}重な食料として役に立ったのです。人々はやっと「ばれいしょ」のありがたさがわかり、根室の人々は、湯地定基のことを親しみをこめて「イモ判官」と呼ぶようになりました。

また、湯地定基は道路をよくしました。このころの道路は、住民が好き勝手に家を建てたことで、せまかったり曲がったりしていました。そのため、人や馬車が通るのに苦勞しました。そこで、人々と相談して家を移^{うつ}したり、水道の工事をして住みやすいまちづくりをしました。湯地定基は、根室の発展を考えた人でした。



根室県庁



和田屯田兵村の被服庫

④ とんでんへい 屯田兵隊長・まさなえ 和田正苗と酪農の生みの親・松浦忠順

きゅう 旧和田小学校のとなり隣に和田屯田記念館（旧和田屯田兵村大隊本部被服庫）という建物があります。明治19年、和田には屯田兵村がつくられました。屯田兵とは、北海道を守りながら、土地を開たくする人たちのことです。

（被服庫：衣類を保管する倉庫）



和田 正苗

そのときに使われたものが中にてんじ展示されています。そのときの隊長の名前が『和田正苗』だったので、和田村と名付けられました。

屯田兵の生活は、大変きびしいものでした。朝はラッパの合図でおき、ラ

ッパの合図でごはんを食べ、仕事のはじめや終わり、休
けい、ねるときまでラッパの合図で動いていました。

また、苦しいことが多く、屯田兵はとても苦勞しまし
た。



- ・今までくわやかまを手にしたことのない人ばかりだった。
- ・家が見えないくらいおいしげった大きな木を切りたおしたり、あれ地をたがやしたりした。
- ・きりが太陽をさえぎり、夏でも気温が低かった。

屯田兵の生活の様子を書き記した書物から、生活の様
子をぬきだしました。

屯田の人は、昔はさむらいだったので、兵隊のくん練と漢字
のほかにできるものはなく、初めての農業だったので、苦勞し
たのに気こうにもめぐまれず、とてもまずしい生活でした。

『北海道巡回記』（セルゲイ神父の文をかんとんにしました。）

和田村に入った屯田兵は、かこくなくんれんや仕事にたえな
がらも、期待した成果がえられず、生活のためにこの地を去っ
たものが多かった。

決められた仕事をしないと、きそくを守らなかったとして、
土地を取り上げられた人も多かった。

このほかにも、屯田兵の人たちの様子を書いた本があ
り、とてもつらい生活だったことがわかります。

そのため、屯田兵はどんどんへり、屯田兵は^{はいし}廃止になりました。さて、屯田兵はどうなったのでしょうか。

畑作物が育たず、気こうもよくない中で、人々は酪農を始めました。

酪農の始まりは、明治19年に根室に来た松浦忠順です。牛5頭を借り、育てながら研究しました。和田村をはなれた兵の土地を使い、牧草地として酪農を進めました。その結果、松浦牧場は約80頭の牛を育て、酪農の仕事をしました。

これは、和田だけでなく、根室や釧路の酪農の^{きそ}基礎をきずきました。和田村は『酪農の先進地』と呼ばれ、その後も発展しました。

和田村で酪農が成功したのには、理由があるようです。



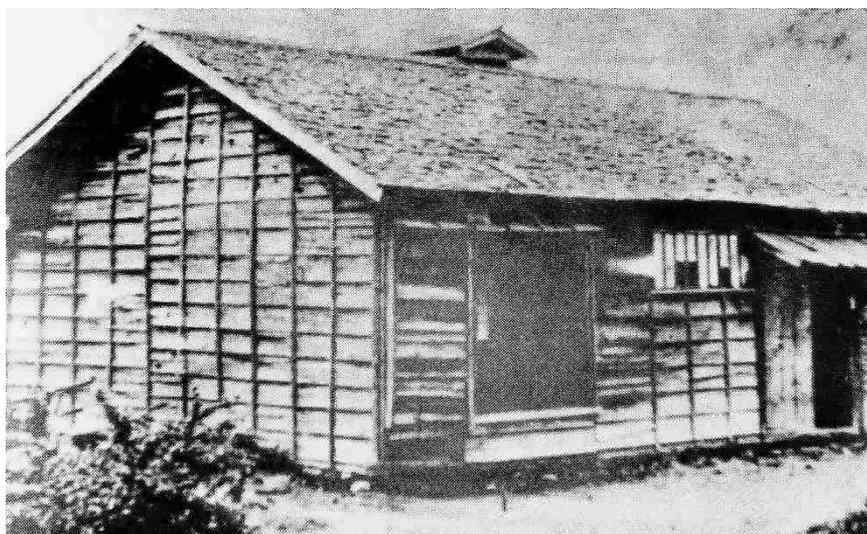
1. 畑作ができなかったから。
2. 使える土地が広がったから。
3. 気こうが牧場にぴったりだから。
4. 牧場を開く人が多かったから。

さまざまな理由がありますが、きびしい中でも、最後までやりぬいたことが^{はってん}発展の一番の理由だったのかもしれませんが。

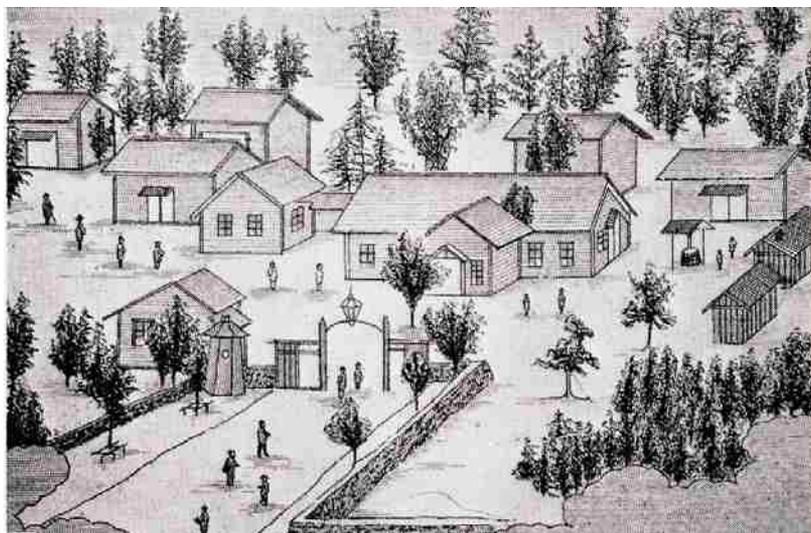
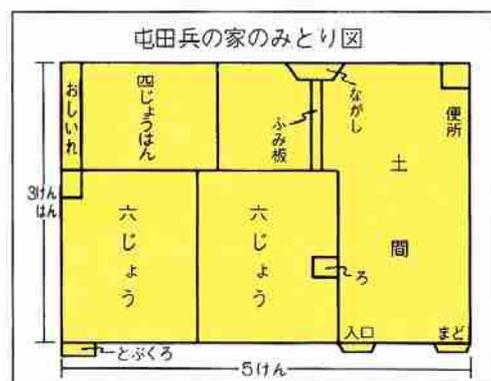
「北海道の酪農の父」と言われたエドウィン・ダンという人が、「根室こそ未来のちくさん基地なり。」と言いました。

失敗するかもしれない中で、そのことばにかけた屯田兵の勇気こそすばらしいものです。

(『和田屯田開拓百年記念誌』をかんとんにしました。)



和田屯田兵屋



和田屯田兵本部

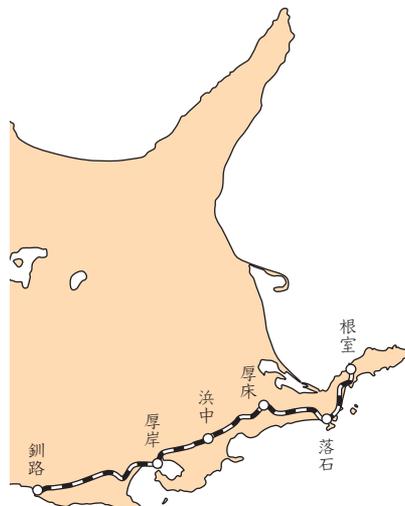
(5) 大正時代から昭和のはじめ

① 鉄道がしかれる前の様子

根室は、サケやマス、こんぶなどの産物がとれ、200年以上前からそのような海産物を運んだり、人々が生活するために必要な米や塩を運んでいました。

しかし、今のように陸の道はなく、海の道を通して、船で行き来していました。そのころは、千島の島々にも行き来していました。だんだん道がととのえられると、おもな村や大切な道すじには、駅ていがつくられました。駅ていは、旅人を泊めたり、馬で荷物を運ぶ仕事をしていました。駅ていは、厚岸・浜中・落石・根室・厚床などにつくられ、のちに歯舞・別当賀にもつくられましたが、大正時代になり鉄道がしかれるようになるとなくなりました。

駅てい（明治のおわり）



駅ていの様子



昔の根室駅前

② 鉄道がしかれる

明治13年（1880年），小樽の手宮から三笠の近くの幌内まで通った鉄道が、北海道の鉄道の歴史の始まりです。

明治40年（1907年）には、狩勝峠かりかちとうげをこえて函館はこだてから釧路くしろまで開通しましたが、そこで工事はやめられました。しかし、根室の人々にとって「早く根室まで鉄道を

をしいてほしい。」という願いねがは、とても強いものでした。

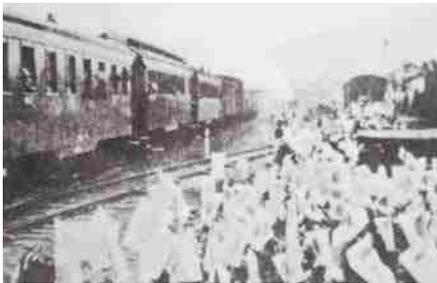
そして、その願いねががかなえられたのは、それから14年もたった大正10年（1921年）のことです。大正6年（1917年）に釧路から厚岸まで、大正8年（1919年）に厚床まで、大正10年（1921年）に根室まで鉄道がしかれたのです。今から90年以上も前のことです。

開通かいつうのときの喜びよろこは大変なもので、

たくさんの人々が集まり、お祝いいわをしました。鉄道が開通して、人々のくらしはみちがえるように便利べんりになりました。開拓かいたくも進み、産業さんぎょうもどんどん発展はってんするようになりました。



のびてきた鉄道



③ 臨港りんこう鉄道

昭和9年（1934年）に、根室駅と根室港をむすぶ鉄道が

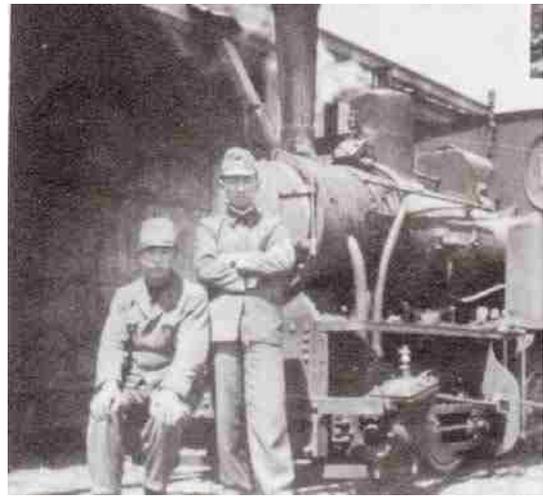
しかれました。この鉄道は、千島の島々でとれた海産物かいさんぶつを運んだり、島のくらしに必要な品物ひつようを送ったりするためにつくられたものです。



りん港鉄道

④ 根室^{たくしよくき どう}拓殖軌道

昭和4年（1929年），
根室町から^{はほまい}齒舞村まで『軌道』とよばれる鉄道が開通しました。「べんけい号」とよばれる^{き かんしゃ}機関車が走り，
地いきの人々に^{りよう}利用されました。



昔の機関車

⑤ 根室空しゅう

昭和16年（1941年）に，大きな戦争がはじまりました。根室からも，^{はたら}たくさんの働きざかりの男の人がへいたいになって行きました。女の人や^{としより}年寄，子どもたちも工場や^{のう か}農家で働きました。

だんだん日本が負けはじめて，昭和20年（1945年）には，とうとう根室の町にもてきの^{ひ こう き と}飛行機が飛んできて，^{ばくだん}爆弾を落としていきました。この空しゅうで，400人ぐらいの人が死にました。花咲小学校の子どもだけでも，33人も死んだのです。家は，^{やく}約2,000けんも^や焼けて，町の中心のほとんどが焼けてしまいました。
^{せんそう}戦争は，空しゅうの1か月あとの8月15日に，日本が^{こうふく}降伏して終わりました。

空しゅうにあったまちの様子



⑥ 市になった根室町

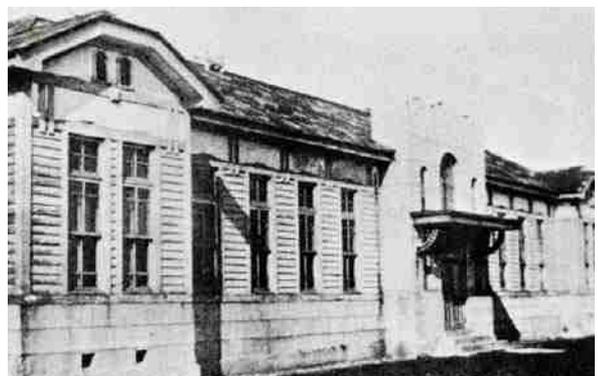
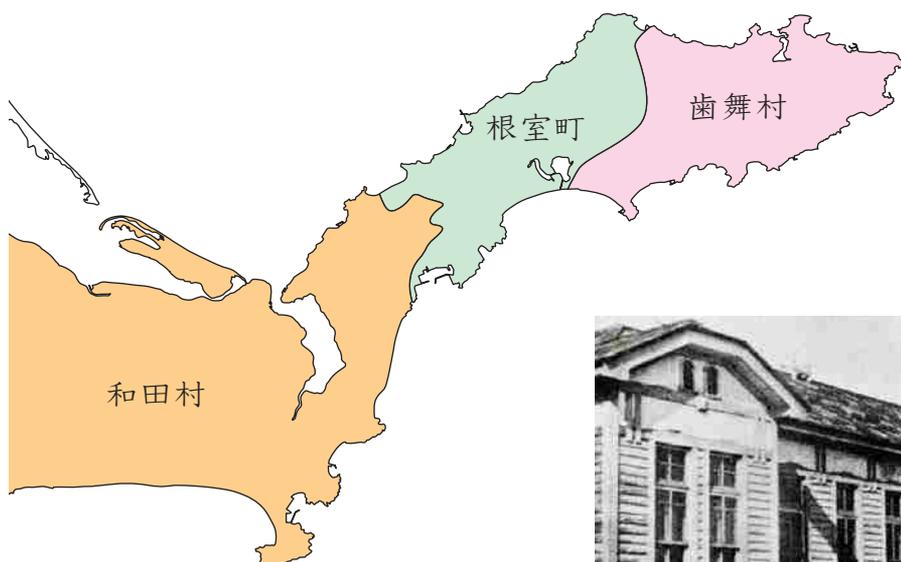
根室町は，昭和32年（1957年）に和田村といっしょになって根室市となりました。

市になって，人口が約31,800人にふえました。また，市の面積も372km²（平方キロメートル）になり，7倍くらいとなりました。

2年後の昭和34年（1959年）には歯舞村ともいっしょになり，根室市の人口は37,214人にふえ，面積も428.8km²になりました。

しかし，昭和52年（1977年）に，日本が水産資源の保護と自国の漁業の発展のために沿岸からの200海里規制を取り入れるようになり，日本の漁場は狭くなって魚が自由にとれなくなり，人口もしだいにへってきました。

1 海里 = 1,850 m 1 km² = 1 km × 1 km



たてかえ前の市役所

(6) まちづくりは続く

わたしたちの根室は、昔の人たちのたいへんな努力や工夫^{くふう}によって、開基^{かいき}から150年近い長い年月を歩んできました。根室市がこれから発展していくために、わたしたちができることを話し合いましょう。



○学習したことで紙しばいをつくろう。

○根室のことを新聞にして、みんなに発表しよう。

○自分の学校のれきしを調べよう。

○地いきのれきしを、家族や地いきの人にインタビューしてみよう。



○未来のわたしたちのまちを絵に表そう。

○新しい根室の様子を話し合いましょう。



今の根室市役所